

式辞

福井県立高志中学校 第7回「卒業証書授与式」に当たり、PTA副会長、山腰文仁様、同じく副会長、三原智子様、中学校委員長、土生仁巳様をはじめ、保護者の皆様のご臨席を賜り、卒業生の皆さんを祝福できますことは、この上ない喜びであります。高志中学校・高志高等学校の教職員を代表いたしまして、高い所からではございますが、ご臨席の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

ただ今、88名の皆さんに、卒業証書を授与いたしました。保護者の皆様には、お子様が卒業の日を迎えられ、さぞ、お喜びのことと存じます。教職員を代表し、心からお祝い申し上げますとともに、これまで、本校にお寄せいただきました、ご理解とご協力に対し、深く感謝を申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

高志中学校は中高一貫校ですが、なぜ、中高一貫校において卒業式を行うのか、その意義を考えながら、式辞を聞いていただきたいと思います。

3年前の令和3年1月、皆さんは、県内の交通機関が麻痺する大雪の中、自らの意志でこの高志中学校を受験し入学しました。思い起せば、あの大雪の中で受験が実施できた強い運、心の強さは「何かを持っている学年」と

入試業務を統括してきた私自身も感じておりました。入学以降も新型コロナウイルス感染症拡大によって、学校での教育活動や行事が様々な制約をされながらも、新しい企画を試み、考え、実現してきた3年間だったと思います。

入学からこれまでを振り返ってみますと、1年生、コロナ感染症拡大2年目で、まだまだ制約の多い状況の中で取り組んだ「ホームプロジェクト」。「学校生活を良くしよう！」のスローガンのもとクラスごとにグループを作り、様々な取り組みを行いました。その一つに「二言あいさつ運動」があり、挨拶の言葉にもう一言付けるという活気ある活動でした。

2年生、コロナ感染症への制約解除が徐々に示された中での学校祭中学校ミュージカル。先輩たちのフェニックスプラザでのミュージカルを知らない皆さんが、キャストとして舞台に立ち、堂々と演技切り、大いに盛り上げました。また、その作品としてのクオリティの高さにも驚かされ、大きな感動を与えてくれました。

3年生、4年ぶりに復活できたシンガポール研修。これも全く知らない「ゼロからのスタート」。その中でも、夏からシンガポール国立大学附属数理学校(NUSH)とオンライン情報交換会を開始しました。「一人一役」の学年目標のもと、一人ひとりが実行委員会から

さまさまの部門でリーダーを担当し、最後に全員がまとめとして、「格言」や「印象に残った言葉」として表しました。まさに高志学の「新しい歴史の始まり」を感じた3年間の取り組みでした。

このように、高志中のいろいろな活動をコロナ以前に戻すだけでなく、学年全員で協力し合い、新しい取り組みを再生・発展させたということから、言葉で表すと、まさに皆さんは「タフ」で、「しなやか」であった3年間だったと思います。

「タフで、しなやかでなければならない」はノーベル物理学賞受賞の梶田隆章先生の言葉です。梶田先生は昨年8月に福井県立大学のシンポジウムに来られ、皆さんの中からも多くの方が参加し、たくさんの質問をして、梶田先生や日本学術会議第三部会の先生方から、お褒めの言葉と大きな期待をいただきました。

先ず、「タフ」ですが、皆さんも考えるように「粘り強く、継続する」、「挫けない」とか、「途中で投げ出さない」などの意味合いがあります。

次に「しなやか」ですが、実は、これが深く大切な意味を持っていると私は考えています。なぜなら、「しなやか」とは「芯は強く、それでいて柔軟性がある」ことですから、「自分の考えを持ち、そして、常に柔軟に他の考えを取り入れ、新しくバージョンアップしていく」ことと考えるからです。

皆さんも感じているように、かつて夢のものと捉えていたものが、技術革新の波の中で実現され、現在、目の前で繰り広げられています。海外とのオンライン、車の自動運転システム（無人化走行）、AIの発達によるChatGPTや自動翻訳機能・生体認証等々、続々と新しい機能・機器が登場し、新しい産業領域が形成される中で、我々は今までにないスキルを求められ、身に付けなければ生き残れない状況が生まれています。さらには、経験したことのない世界的な危機的状況も現れてくるでしょう。その時こそ、皆さんの持つ「タフさ」と「しなやかさ」で乗り切ってほしいと強く思います。

卒業生の皆さん、高志の中高一貫教育の理念の一つは「一人ひとりの夢の実現」です。今まで皆さんが実践してきた「タフさ」と「しなやかさ」を胸に、それぞれの夢の実現に向かって、高志高校で大きな飛躍への第一歩を踏み出してください。

最後になりましたが、ここにお集まりの皆様方とともに、これからも高志中学校・高志高校が進化し続ける学校として、発展していくことを祈念し、式辞といたします。

令和6年3月21日

福井県立高志中学校 校長 濱田 敏功